

門加
清 625
2

假名字例卷二 自知至奈

知

乾神 小縣 信列 郡名

らりふ

池鯉鮒 三河 馭家

陣座 在大内左近南殿東日花門内右近月花門内也又白馬陣春花門南而又縫殿陣八朔平門北

氣形 張儀 與蘇秦俱事鬼谷先生學見秦惠王為容卿說合從連橫術乃權變之士也傳史記

載附 張良 字子房下邳圯上而老神入授編書

後為漢高祖之臣 封留侯蓋文成侯 ちやうけい 張仲景

名機漢長沙太守傳明醫術有傷寒論非後人之能及與劉河間李東垣朱丹溪合而謂醫家之四

先生傳在名醫傳卷
醫學入門等之諸書 **ちやうりやうきさく** 張橫渠

名載字子厚世大梁人初受業於周子後從程子宋
嘉祐二年登進士第太儒也晚年居橫渠神宗熙
寧二年丁巳 **ちやうそく** 張即之

先二程而卒
元朝之善
書号楞寮

ちやうげん 鄭玄 字康成所註周易尚書毛詩儀禮禮記論語
孝經等其外所著有數多又名笈術

ちやうてん 持統天皇 四十六代天武
帝之右

ちやうめい 長明 東鑑卷九鴨社氏入菊太夫長明入道法名
蓮胤ト云云四季物語海道記方丈記發心集作

ちやうぢ 智證 大師也住ス
三井寺 **ちやうぢ** 地藏 菩薩也

ちやうらう 女中 **ちやうぢ** 脉

ちやうけい 生植 **ちやうけい** 地層子

ちやうしやく 服器 **ちやうしやく** 地黃丸 補左
腎方

也錢乙字
仲陽組之ヲ **ちやうしやく** 重箱

ちやうしやく 逆靱 又一斬
箱左箱右ヲ云 **ちやうしやく** 定規 俗定木ト
多非也

ちやうしやく 軸表紙 **ちやうしやく** 沈香

ちやうしやく 茅筵 **ちやうしやく** 丁子

ちやうしやく 中庸 孔夜作四書内
孔門傳授心法也

雜事 **りんぎょう** 領掌 俗作 **りんぎょう** 兩方 リヤウヤウ 凡ヨミキタ

ル是ハ僧ノヨミナラニ声通ス **りんぎょう** 臨終

りんごう 諒閣 諒陰日本紀ニカミハト訓ス論語註 朱子曰諒陰天子居喪名不詳其義ヲ

りんごう 利口

ぬ 奴

氣形 **ぬえ** 鵓 近衛院御宇源頼政射之云字書曰音夜鳥名山海經 單張之山有鳥焉其狀如雉而文青白翼黃足名曰 白鵓是頼政所射之各別也ナク又エニ 似タリト云時化鳥如何ト名ツチカタシ

生植 **ぬるば** 蓐 水草也モロコシ一長江ノ名物晉張翰カ 水ガ所ノモク 秋ニ大カぬぬノト有

服器 **ぬり** 塗籠藤 モウ 徒然草ノ傳ナル 故文字不書之

雜事 **ぬい** 縫 附ぬいめ 縫殿頭 中務ノ 被官

相當從五位上 共順和 礼拜 **ぬい** 額突 ウチツクト 相通額首

ぬい 温 一氣ト書テ 火後暑ノ義ニ

非ス春温甚熱秋冬寒ナリ然トモ礼記月令季夏ノ 所ニ温凡始至トアリ因ニキカシク多ク子氏常ニヨロシカラヌナリ

る 留

雜事 **る** 留守居 **るらう** 流浪

るいん 類葉 ヨウエウ 一ナリ

を遠

とひび 燐火 順後云人及牛馬死而血所化之又キツ子ヒト訓ス

とひせ 追風 ソラ焼ノ薫來也又駿馬異名

とまひ 燼煨 燼ニ置火也古今集物名とまひハ燼やそハあつまん又たまひ燼字也同物名部ニ我野都嶋たまひのてまどやうらりそ有古書ニをまのト書タル多シ

とら 岡 又丘陵古歌ニ越ノ松又一木ノ部一崎又舟ノ片一雙一神ホ一彼一

とられた 隱岐國 此國在伯耆出雲石見等之沖故名云云

との 小野 ニヶ所古今ニあさらあとのとのつハ山城又新キ小野御牧ひらなるとのこのまの露のハといハ

心常陸之又金葉伊勢の海のとの
あつまんそととと伊勢

とんひせ 小初瀬 万葉小長谷 **とひえ** 小比叡 山門アリ委ハ出

とらやま 小倉山 山城名所 **とほ** 小臈 山城名所又同字ニテ

とにか越前ノ名所ニおまよやよはれ浦の
とまよよてねさめに秋月とらんとい

とたぎ 愛宕 山城郡名郡内ニ山アリめニト云文字一也訓モ亦五音相通一宗祇法師カ名所方角ニ高野郡トカケ

リアムコ拾芥ニ一護曰此愛
大子昔王ヲ葬所ナリト有之

なしま 小嶋 陸奥名所又雄嶋トモ

とらす 小栗栖 山城アリ **とれがえ** 音無川 紀伊名所

とにいふ 遠敷 若狹郡名 姨棄山 信列名所 月ノ道地

とーり 牡鹿 陸奥郡名 とどぐ 遠賀 筑前郡名又神

とどぐに 乙訓 山城郡名 とらら 雄勝 出羽郡名

とら 越智 伊豫郡名隱岐国ヲナハ文字穩地也 忍海 大和郡名

といた トモ 置賜 出羽郡名 とんぶら 遠城寺 三井寺也又御

ととれなき 音羽瀧 在清水又比叡山ニモ附 一山ハヤニチニアリ

ととれなき 小忌浦 名所 とたえぬ 緒絶橋 陸奥名所

とら 又とだえの 伯父 又叔父俗父方ハ伯父ト書母方ハ叔父ト書ト云ハ非ナリ 伯父ハ父兄叔父ハ父ノ弟也母方ハ伯舅叔舅トカリ

とん 源氏物語等ニハト有叔母トモ伯母叔母 父ノ姉妹也母方ハ從母氏 姨母氏 姑氏書 兄弟 姉妹 共 とんる 女 古ニハト云ナリ 今ハ子ニラト云

とらぬい 應神天皇 譽田天皇

とらぬい 氣形 忍穂耳尊 地神 二代

とらぬい トモ 兄弟 姉妹 共

とらぬい トモ 女 古ニハト云ナリ 今ハ子ニラト云

とらぬい トモ 女 古ニハト云ナリ 今ハ子ニラト云

とらぬい トモ 女 古ニハト云ナリ 今ハ子ニラト云

とらぬい トモ 女 古ニハト云ナリ 今ハ子ニラト云

とらぬい トモ 女 古ニハト云ナリ 今ハ子ニラト云

とらぬい トモ 女 古ニハト云ナリ 今ハ子ニラト云

まもく

弟

古今集雜部詞書ニめれむこと

まひ

甥

まひ

鱧魚

まに

鬼

人神トカキテモト訓ス此字隱字ヲ以テ訓母トス鬼物
隱而不顯形故ニ俗呼テ隱ト云古今集序ニめれむこと

トア

まじ

瀬川

まじま

駑

まじま

まじま

甲斐權少目良高ノ子則延喜之時人任
丹波權大目後任淡路掾

まじま

源氏物

まじり

囀

鳥ノ媒也又是ヲ
了レト訓ス

まじ

壯

まじ

雄

古ハハ子ス囀ノ訓
ニ紛故今ハ子テ用

まじ

怨敵

附一

まじ

夫

木トトヨム
時ナリ

まじ

死鳥

此字ヲ書來凡常ノ大凡ハ
鷓鴣トカキテ一ハ小凡ニ

まじ

嗚呼者

鳥辭共伊勢物
語ニミハナリ

まじ

陰陽師

ト共

まじ

小指

順倭ニ指トナリ伊勢
物語ニハナリ

まじ

鮒

まじ

ひ女

童女共天
五月一日

りとの時もまじ足引のふまはれまじ又まじり木のまじり木則
尾宇山まじりの鏡ト云まじり又万葉ニまじりまじり文字雄鳥初尾
也雄鳥ノ初尾トモカリ
皆翟鴉ノ事ニ云ナリ

本記私三小女十五六歳ヲ云
万葉ニ幼婦ノ二字ニとあり

ととよめ

娣婦

礼記内則ニ介婦トカケリ
附オホヨメヲ曰書ニ家婦ト書リ

生植 ととよ

女郎花

万葉ニアリ又
女信芝トモ

なぐね

晚稻

あつての
めんとくうまの
きめとらん

岡栗

万葉ニ古
今物名

神ニアルコト
也古事アリ

とびく

白木

餅ト云
ハ五條ノ天

小篠

なうけじ

崗羊

ととろ

緒

とどろ

棘

カサチ
ト藤同

このとを琴ラるるのを紐いたれと太刀かけと降一
緒もこのを管一かろのを冠一とと組一等也

服部

どの

斧

杣人是ヲま
くりト云

を

草

又人ぬいト訓
此字加ノ所

ニモ
出ス

とと

押繪

ととや

乙矢

矢又箭前附
やうり 鏃

とて

印判

ととり

鐘

秤ノ

とと

小車

附一
舟

ととつら

几

脇息
ナリ

とと

押懸

馬具ニ
文字イ

フカシホリト可
書祖口傳ニ

とと

押擗

なりもれ

織

ととトチモ
綺口訓

とと

温石

熨療ニ用
親行カ書

夜ト有
不可用之

難字

といて
とめて

於 ヲキヲク物音
通依テイ井キニ

掟 陟猛切
揮張也

とらひ

一昨日 和語ニ
義難通

とらひぶ 呼叫 叫ぶ

とらひ

追儼 十二月晦日夜行ハル慶雲二年十月始也唐主ニテハ巳
久ト也周礼方相氏職也又礼記及論語ニモ出タリ

とらひ

居 居モ同字也
又坐訓一也

補 字彙ニ補
衣也ト注ス

とらひ

終 又畢卒堯同訓人ノ死ヲ終トイフハ君子ノ
終上ナラテハ不用礼記ニ出タリ

とらひ

推量 料
トモ

憶

とらひ

劣 古書ニホ
有イフカシ

教

とらひ

越度

とらひ

及 古書ニホ
トモアリ

をらり

百千度 一
遍

衰 古書ニホ
トモ

まふ

追 又逐

置 處同訓古今
集ニ物志の

まふ

泳 又游

遲 晚同訓也又
又カルト訓ス

まふ

恐 又怖又畏おそろトカク時古今序ニホリ又をのこ
惶戰ト又むらとらひ怖恐トを差別可味

まふ

音 風一雨一杏一龍一
川一浪一水一撥一

まふ

已 俗中略シテをれト云
又とのグ已トカク

とろろ 愚 思 どんる 遠流

とこまよ 行 龍衣 敵ヲク分シ
又邪氣ヲク

とくあ 送之贈彼
ハルハ魔ナリ源氏ニハたうりて
カケリ又とびゆ魔又界
又饋附をりじく送迎

とんま 隠密 謚 周公且
ヨリ始

なとじ 去々年 音信 親行カ書
とらつれ

とこり 懈 又急 瘖 不言
病也

とこり 儼 又急 遠近 附とらつれ
彼方官有

とよう 凡 訓止時ニ 後 又殿

なごり 驕 又奢 威 怒又又甲
曹ヲ作ニ屋

とごり 躍 又踊又歌 自

とごり 躍 又踊又歌 自

とごり 躍 又踊又歌 自

とごり 躍 又踊又歌 自

とびく 偽引 侵 又犯

とごのり 貫 又餘又典 押 又てまぬ
の附モ此字シ

とごのり 貫 又餘又典 押 又てまぬ
の附モ此字シ

とごのり 貫 又餘又典 押 又てまぬ
の附モ此字シ

とごのり 貫 又餘又典 押 又てまぬ
の附モ此字シ

とごのり 貫 又餘又典 押 又てまぬ
の附モ此字シ

とごのり 貫 又餘又典 押 又てまぬ
の附モ此字シ

小家人姓

麻績 人姓

小家人姓

忍坂 人姓

疎

そのく 各 とうざり 應

とてらや 押照哉 万葉に於て流瀧婆哉古々雜ニ
とてらやと雖も其のまじり

和

乾坤 わさみ 度會 伊勢郡名古書ニワサミ人誤カ新古匡房君代ハ
一のくまきと云ふ也此地五十鈴河上有天照太

神之靈廟十一代垂仁天皇御宇倭姫自天和笠羅邑
奉鏡劍而鎮坐之内外宮説之不同然内宮者天照太
神外宮者後奉祀太神之孫天瓊杵尊二宮都曰伊
勢皇太神宮也内外者俗之言也

わさぶらう 王城

氣形 わさぎ 王義之 晋右軍
尤善書ヲ

わさうえん 王昭君 又明妃ト云漢元帝ノ宮女胡國へ嫁スル者也
馬背ニ琵琶ヲ彈ノ哀怨ノ声ヲナス依之

又音樂ノ名
一ト云アリ 王戎 七賢
ノ内

わさぶ 童 文選東京賦注ニ
振子トアリ俗一節

わさたり 黄雁鳥 一歳另
タカク云

生植 わさくらえ 嬾葉 万葉ニリ木ノワカ也又ワサくらえ病葉イタニテ
紅葉スル也又ワサくらえ邂逅則タサカノ義也

わさぎ 黄荖膏 又一葉一精
一連一芬等

服器 さらふた 蒨 圓座之事也順俊ニワラ
ト圓座ノ二字ヲ訓ス

草鞋 ワラジト
云訓相通 脇楯

雜事 **黄鐘調** ワタロ
ワタロ 共育
災 禍厄

往生 釈氏ノ詞
作往俗也

纒 又僅一公羊束ト云訓之トモ古今
ニあつたけいま分ちうよ成ぬぬ

笑 俗作笑
又莞爾
辯 與辨同
俗作弁

弱 又稚又幼又少又嬾倭俗若ク字ヲ用來字書ワカテ
註ナシ声相通故方近代明清ノ書ニ若輩ノウキ字有

挽飯 常ニ節
振舞ト云
疋弱 イヤシクワカ
キヲ云俗

亦此字カ

加
加

乾坤 **風寒** 又一冴
又一凍
河 又川本字
附うんせう

瀉保浪 万葉
ニアリ

上總 今中略テ
カサト云
河内國

甲斐國 作斐誤也此國之俗所
一峯ト云はねと
やどしうけれり又
一白峯ト云はねと

上野國 古訓
カミノ

學校 モ呂ニ三代盛
時在所々迄ニ有
見目本モ昔八國
有テ延喜式見タリ
今下野足利一所アリ

上毛野 古今ノ作者
ニ

學校 有テ延喜式見タリ
今下野足利一所アリ

ぐんかう

是小野篁
建之由

うまふ

蒲生

近江郡名
名所一野

うらひら

通路

うらう

甲賀

近江郡名

うめねやま

龜尾山

山城名所

此腰ハ清
瀧川流也

うねやま

海路山

越前名所

建保抄ニ
飯山ト書

うねねや

香柞宮

筑前名所

南ニ海東ニ
山アリ

うらひら

語岡

名所

うらひ

五ヶ所神竝森ハ山城因山崎ニ賀茂春日相並故此名アリ
又神南備御室トヨミシハ大和也神名帳ニ南備トアリ
又神南備新勅ニウミシハの社のありニウミシハトヨミシ撰
津也又神南備古今ニウミシハの社ありトヨミシ

八丹波又
備中ニ

うら

假庵

又廬ト
又借ト

うら

櫛

うら

厠

又厠

うら

咸陽宮

秦始皇
城也

うら

梶嶋

丹後名所

うら

柏木森

大和名所
奈良内

うら

笠縫里

美濃大和

うら

更衣

女官也大納言ノ女奉公時ウラトナ源氏相壺ノ
アリ醍醐帝籠ヲ以テ準之古書ウラトナ不可用

うら

上達部

四五六位
殿士也

うら

卵

鳥ノカイニ附
解鳥ノ化スル

うら

也俗ニ
歿

うら

蛙

又蝦蟇附
古

書ニウラトナ
ウラトナ相通ニ

うたうど

方人

かこむれ

片輪者

軌音トモ

又頑ノ字ヲカコトモカコトモヨム唇音ニナ
ナリ源氏須廣卷ニハカコトモヤトアリ

うせうそんう孝照天皇

人王
五代

うたかひのきさきと柳本大夫

ううそ

高祖

常ハヒオホチライトモ物ノ元祖ヲ云
タトハ劉季ヲ漢ノ一ト云カキ

うさお

乞兒

乞食ノ義願倭ニ
見タリ俗ニカキ

うはうり

蝸牛

又輸

かから

鍛冶

上声タニ下
声ヤ又鍛

声カ訓ニコロ又治声ヲ訓オサム字形
相似ヲ以俗ニヤリテカキト云

うがはせ

顔容

又カトシ
ハ顔ニ

蝙蝠

異名伏
翼源氏

ふのうそかり上
ふりト云モ相通

ひこ

蠶

俗ニ蚕願倭
ミコトモ

古書ニハニトモ有又ハニトモ云葉子
古今序注クハニのヨメニリトアリ

鶺鴒

うがらり

貌鳥

密鴛鴦
異名

御説ニ
雉ナリ

うとつあん甲乙人

貴賤
上下義

うそ

鯉

堅魚トモ一ハ字書ニ有トイハ注不分明本草ニナシ
順倭ニ加豆字又鯉節即愚案ニ一干ト可書カフニ
ホシ五音一ナリ又順倭鹽梅類ニ煎汁トカキテクといらマ
ト訓ス注ニ本朝式ニ引テ堅魚汁ト云又鯉木官社種置

うらん

勝臣

作明甥之
克作者

うせう

迦葉

釋迦弟
子上行

一 茅

くう

項羽 名六籍字八子羽之

少時學書不成學劍又不成季父項梁怒之項羽曰書足以記名姓而已劍一人敵不足學學萬人敵於是項梁乃教兵法羽大喜略知其意又不肯竟學云云後與漢高祖劉季戰而失利詳史記本紀第七

韓昌黎 韓愈字退之唐憲宗元和十四年為刑部侍郎上表極諫佛骨事

九遷潮列 刺史文起八代表以六經之文為諸儒倡依之學者仰之如泰山北斗云云唐朝一人之學風也

行成 藤原氏官大納言圓融院御宇生後上條時薨壽五十六能書也合道凡佐理而号三筆

管丞相 名道真醍醐帝之右大臣北野天神是ナリ

高良神 八幡系社武内宿禰ナリ

看督長 くうべ 首

蜻蛉 又えんがト訓ス本州注一名胡蠶又源氏卷及徒然草ニけり此ゆ之とナリ文字 蛸蛸常ニヒラムト訓ス又うけり此ゆ之とナリ文字 蛸蛸常ニ是ナリト云文字遊系又是ヲ野馬トモ云

膏育 灸穴名 膏看

垣生 垣ニ草ノ生スルナリ

菘菜 出于本州順和

海棠

樺櫻 古今物ノ名ナリ又上字クニト訓ス物ヲツルニ

うらぎ

香附子一藁之類

うらみん

藁本うえて

楓

うらま

水苔カハノリノ義
うえねさ

榧又栢俗名ト云

うらま

柏木本神ニ榭
うまよ

枯生

うらみ

草行阿名書カクシ
うえう

荷葉

うらぶ

楮漉紙木也又梓同字
うらぶら

貌好花杜若ヲ云

うらぶら

鴨頭草倭訓イナキ
うらぶら

耳松一草ハ

服器うらり

冠カニクリト云訓相通附なまはかり見免伊勢物語ニうらりてト有弱冠ニ始冠氏書

うらね

貝合アハセト訓スルモ五音相通又貝殻下書西行今そちウニの浦の蛤と云くせいしそち書ふ

うら

鼎三足兩耳鐵器也俗ニ鼎鼎類倭ニアカナト訓又釜字カナトモ訓ス附ウラノカ人鼎臣

うら

楫又橈又楫ハ倭字舟具也又木ノ名ウラハ楫葉用來

うら

鐵輪うらざり

剃刀女裝三藏カ表テ

うら

搔筥下字異附餅敷

うら

餉又乾飯之二字
うら

うら

土器うらし
合子飯器也

うら

篠子家屋具俗格子
香合一物

うん

皮 又撓皮イタメカト訓ス又革ツリカ説文ニ去毛獸皮又韋ヲカ唐韻ニ柔皮

うし

香 カウハト訓時香芬芳共曰訓附一莫近來一典トカクニ有非也附一炉

うんごころ

求衣 狐一

唐櫃 カニツト訓モ五音通

ういろう

甲香 香臭ナリ

瓦 カニツト訓モ五音通

ういろう

鬼 とんろ

笄 カニツト訓モ五音通

ういぬ

鴨居 順倭ニ一柄注ニ本文未詳愚案ニ上ヲ上井下ヲ敷井上可書カ上下ニ溝ツケ之鴨居上井訓相通

うんぞき

橈 雪或ハ深田ニ是ヲハク

搔繩

うらち

麴 順倭ニカニツト訓ス異名酒母又糶ハ郡俗作字尤野ナリ

うらや

膏藥

吟

乾薑

うんごう

干瓢

うくろひ

陰 万葉ニ陰比源氏物語うくろえ業平歌ニくものしらまひくくろひハ

うい

歸 又還又廻附

うか

薰

うたがひ

參差 又カ

うころがが

誣顔

うらごひ

嘉定

喰 世ニ一祥トカクハ非也六月十六日行仁宋ノ寧宗ノ年号ヨリ事起ル其説長故ニ畧之

うばえ

影副

一茶禪閣及親行本書ニアリソエサエ相通

うかい

加階

うら

告文

四例二

三十一

くまろく

乾 又燥

詞ニ関フナリ
くまろナリ

くまろく

開合 言語ノ附
様樂ノ祝

くひれ

無甲斐

くまろく

復申 親行カ
書ニ

くんぼう

感冒 病也

くまろく

蒙 又被

くろまり

賽 神祇
詞

くまろく

傍 又片邊共ニ
ナリ

くまろく

くまろく

替 改易更代変
ニナ同訓

くまろく

傾 今案ニ
くまろく

くまろく

叶 与協同字ニ
又稱又合

くまろく

顧 宵氏

くまろく

考 源氏ニ
くまろナリ

くまろく

加持 大日經ヲ神変加持經ト題ス加ハ佛ノ三密ナリ持ハ
行者ノ三業ニ彼三密ヲ此業ニ持ヲ加持ト云ナリ

神道者流或ハ加持ト云ハ
佛家ノ言ヲ借テナリ

悲 附嗟哉カレイカチヒトカニ傳有樂苦モ亦然リ悲哀ト属
傳アリ樂苦モ亦然リ

くまろく

幸便

くまろく

渴仰

くまろく

九龍悔 易乾
九タ

くまろく

嗷問 拷問共附
一訃

くまろく

肝要

くまろく

辛苦

くまろく

刷

くまろく

闕窺 垣間見
トモ

くまろく

頰 西ノ東ノ
常久ノ訓

くまろく

交割 家ノ實
ヲ云棠

陰比事
ニ出タリ

恰好
アマカヨシト訓ス世ニ合好
トカリハアシト云

降参

視告朔

正月二日初リテ月々有之天子御覽於百官之
行事上旨之記録也見公事根源典論語之告朔字同
意異

ナリ

孝行

孝字倭訓文選ニ
たやた〜ト有

合力

飼

鳥獸ヲセ
ナフナリ

圍

又カコム是ヲ茶道
ノカコヒニ用

語

又カタラヒト訓
シテ人ノ姓ニ用

數

算同訓古書
ニクナシトモ

抱

學同訓

必

守殿

又督一又頭一
從者尊主稱

必

主計頭

相當從五位上
民部被官也

膳部

上ノ字カニテ
ト訓ス人姓

片膳

延喜式忌
詞七言内

講釋

一談又口
釋ハニク

妖靈星

惡星
之名

夜御殿

天子御
寢所

横川杉

山門之内
名所

流星

妖靈星

夜御殿

天子御
寢所

横川杉

山門之内
名所

與

例二

よかづき 宵月

よもぎふ 蓬生 源氏卷名 よろひぎ 白芷

服部 よろひ 鎧 虫衣初作之甲冑ノ二字下學集ニ上ヲヨロヒ下ヲカブト訓ノ其注ニ日本俗呼甲為冑讀大誤歟トアリ然トモ今諸書ヲ考ルニ甲冑二字ハ二分チナクヨロヒトモカブトハヨムキノ注也カブトハ兜整トカクヘシ字書ニ首

鎧トアリ鎧ノ一字モヨロヒト訓シカクカブトハヨムキレハ兜整ノ二字ヲ首鎧ト注スルハ首ノ字ナキト身ニ著ラヌトキヨ然ハヨロヒトヨムカタツヨクカブトヨムハヨハキナルヘシ

よろよ 腰輿 天子ノ乗物

よめり 世風俗 くらげびら 攀躋

よんひ 齡 俗作齡

よろそ 癰疽 古書ニ并クツン腫物

ノ各病ハニ也

よろぎ 容儀

ようせう 幼少

ようね 用意

よそかひ 糝 又裝

よそへ 準 准同

よこたへ 横 トモ

よぐふ 喚 又呼附

ようきい 妖恠

ようたひ 遙拜 爰ニ居テ彼ヲ拜ス

よかり 節折 十二月晦天子御々ケラトリ被アリ年中行事ニ二月晦又十二月追儼ノ夜一御被アリト云

大

太

乾坤

たぎつづめ織女

又志の字ニ詳ナリ

ながめれ衣

但馬國

古書ニタキニ

たぐひ

丹比

河内郡名又同訓多治比久ノ氏ナリ

たろま

高雄

在山城并愛宕山紅葉ノ名所有神護寺四十九代光仁帝寶龜五年建于時空海ニ歳俗此寺空海之開基ト云誤ナリ

多武峯

大和ニアリ寺ハ鎌足ノ草創

瀧河内

吉野ニ有

たふれも

たまえ

玉江

摂津國淺水ト云所也又越前名所也

たえま

當麻

大和葛下郡神名帳ニたいまつアリ上字声タウえいソカナ相通テミナ声ノ古書ニミヘラ用イフカニ源氏

物語ニたいまつありト有一ハ右大臣豊成公曼陀羅會ノ本願

たうけ

峠

到下共則少ノ也

なうらう

道場

たうん

塔婆

此翻ヌ方墳

なうらう

堂塔

佛居ナリ

なうらう手力雄神

天照太神ノ臣

たうらう

道風

小野氏官木工頭延喜五年生村上天皇康保三年卒能書也

たいらうらう太公望

嘗釣渭濱後興而佐文王武王聖人也

たうらう

道隆

蜀國之僧号蘭溪後嵯峨帝寛元四年來朝平時頼歸依後深草建長元年建

寺於相州号建長寺以道隆為開山後宇多弘安元年七月廿四日道隆寂謚大覺禪師日本禪師号之始

たごやめ 婦人 万葉ニ手弱女詩經ニ婦徳又専女ノ字ノ古例ニ

たらちね 生親男 附ちりりハ垂乳根也

たいさだ 太政大臣 師ニ範一人儀形四海中華曰大師曰相國曰太尉

たごきさう 道鏡 孝謙帝寵臣号引別法皇ト

たうえんぬい 陶淵明 陶潜名元亮字淵明也世号靖節先生晋時之隱者也愛菊為老莊之學宋文帝徵不至

たけのこ 帶刀長 春宮坊六

たじ 刀自 くらトナラ下部ナリ

たうと 只人 職原桃華一人追加ニ山

タリ又九人氏源氏桐壺ニ山君とたうとにのりしけもハ

たましぬ 魂 又魄又靈附たましぬ魂緒俗ニ玉緒

たつこう 脱肛 たふれぬ 斃 人及牛馬死タル也

たい 鯛 附ちたたい 老魚 田鶴

たゆみ 大夫 又大輔 たいふ氏 たらねめ 戯女

生植 たうらる 筍 筍同源氏横笛ニ たうらるとつとにさり

たましとやぶ 玉小柳 本字柳又玉緒一氏

たうけん 桃仁 たうこさ 當歸

服器 たろひ 盥

手洗也

たろく

唐紙

たろく

俵

和俗俵字ヲ用テ無本拠

たろひ

手巾

手拭トモ中比テのミ

ひ今テぬくひト云共ニ五音一ナリ

たんき

短冊

尺トモ

たろく

丹青繪

たろく

疊紙

たろく

道服

地下今羽織ト云

たろく

道幸棚 茶室ニイタ

ス処也道幸ト云僧ノ初ナルト也又俗銅壺ト書テ湯器ヲ云是ハダラニ未見出処且又字義不穩

雜事 たろく

嬋娟

たろく

納涼

たえ た(ト)え(ハ)多ニ所ナク有

絶

たけ

酎

開同訓

たへり

妙

作妙同附きいたのまろ敷妙枕又まろたへ白

たへり

譬

又喻又縦又假令

たへり

貯

又蓄又儲

たへり

違

作違同

たへり

互

俗作

たへり

牢籠

たへり

大嘗會

天子御即

徳之幸以其新米献伊勢大神宮
十二月五日行ハル大祀ナリ

たへり

上ノ二字アラレハリト訓ス正月廿日十六日於建礼門有舞踏天平二年正月廿日

始行

たへり

耕

又耨

たへり

平

世たひトカク

たへり

汰

声タイ字書音洗之瀬也古音

文字皆
イブカレ

たえ

湛 又森

たひ

戰 又闘

なまきぬる鎮魂祭

十月中寅附鎮
花 十一月晦日

たゆふ

給 又賜

たひのり

たぐひ

類 又比

たふれ

戲 たるれ
トモ

たぬぬ

猶豫

たふれ

倒 又顛倒ノ
二字

たふこと

謔言 又妖言
又誰

たふらふ

徘徊 又字ニテ
たふらふ

たふらふ

起

たつ子

尋 附たふらふ
原夫

たけよ

武生

人姓又たけ
に竹尾也

たけら

湯治

たむ

橈

ホヲタホル也又矯ハ箭腰ノタム也
又枝ノ大ク枝ノミトト云時モ此字

たふらふ

到來

たふらふ

大壯 俗ニ物ノ張
大ナルヲ云

礼

乾坤
れう

寮

家屋ノ一也陰陽ノ
大炊ノ大學ノ等也

氣形
れうめ

龍馬

天子御馬ヲ云凡八尺
以上ヲ一ト云周礼也

れう

獵師

生植 **まんげう** 連翹

服器 **まうら** 綾羅

まんごく 簌債

雑事 **まうら** 料理

まうけん 簡又料

曾

乾坤 **まかぬ** 微降雨一霰一時雨一又まかぬの添雨又壯霰

まうぼう 僧坊

まうら 料紙

まうら 療治

まうら 聊介

まうがう 十河近江名

まうべう 宗廟本朝一八伊勢石清水ヲ云

まうふ 園生須後三園圃又苑圃又たけのうらふ竹園也親王ノ事也

まうふ 添上河内下郡名

まうふ 衣通姫和歌ノ三神ノ其可也即弱浦玉津嶋神是也允恭帝ノ妃也

まうふ 素盞烏尊天照大神ノ弟也古今序ニまうふとトモ

まうふ 曾子名參孔子門弟大賢至孝之人也

服器 **まうふ** 袖打振又 **まうふ** 粘續飯共又ノリト訓又

まうふ 僧都カシ義也常ラウツ也古今誹諧足曳れ苗れをわづよのまうふ

雜事

そくわ

即位

御宇ノ始ニ異朝ニ天子諸侯共ニ云也日本ニ天子ニカギル

そくま

備

俗姓

そくす

奏

又くみてト訓ス舞

そくま

鹿鹿相

そくま

殘宮

又損又伎

そくま

從耳

又從

そくま

汰

又揃

そくま

添

又副

そくま

送別

送りあへハ送行ト事

そくま

訴訟

近世ニ詔ノ字ヲ用誤也詔ニヨトケト訓ス訟ニ及ミ

そくま

唆

そくま

底意

袖中抄又一井

又水代ノ云々ニ云々
ウラヤバウク山川の

そくま

雙調

四月之律

そのひひと終其報

そくま

崇敬

そくま

宗匠

和歌等ノ

そくま

惣領

惣俗也家督云々



吉備公及空海圖ノ字ヲ用俗門本字トスルハ誤但玉竹圖ニ門郡豆切ト有ヲ以ツノカヘシトヨミテナレハ都ヲ唐音豆ヲ其音ニトリアスカタク中華ノ草書圖ノ字ヲツノ形ニカケルモアリ

そくま

旋風

又颯又旋ヒト各片附ト旋毛又ツビト廻毛馬毛ナリ

そくま

十字

順倭ニアリ附トハ四會トハ字書ニ雖有之音叙ヲ推テツジトヨムナリ

そくま

九折

文選ニ盤折山道ナリ

ほいら

築地 伊勢物語

気形 ほいれ 兵

ほいびの月額 さうや

生植 づゑたま 薏苡

ほいり 萌 草木ノ

ほいど

躑躅花 異名ニ 杜鵑花

ほいえ

栝

服部 ほいえ

杖 又々つえ横首一古書つゑに古今通脈カ詞書ニ ちろつゑをつゑよほく連りト有然に今難用之ヲ

ほいご

衝重 又築重に折敷似る 物也俗にぐらぐらトモ

ほい

厨子 佛舎也 ほいまる 續松 又たいまる 相通テニ

ほくえ

松明トモ 又焔

机 附ぶぐえ文一 同書案トモ ほいれど 黄楊小櫛

ほいん

頭巾 又此字山伏ノ ともん用

雑事

ほいら

朔

ほいよ

終 竟同古書ニ つか井ハ

喉音ニメ一 也他準之

ほいふ

繕 病ヲほいふニ 八療ノ字ニ

ほいり

春法

ほいす

遣

ほいふ

湊 源氏ニほいえ中紋ニ カミツトヒ神集

ほいん

啄 鳥口ニ食ヲ トルナリ ほいごまの 屬強 馬ノ附 けつま

ついで ついで

次 又序

はたへ ハニ通

傳

ついで ついで

就 又付 又著

はくのふ

償

ついで ついで

追從

はごふ

番 雙同

ついで ついで

奉 又事 又仕

はぐみ

使 又仕

ついで ついで

妊病 又惡 阻

はづえはく

支願 文廷其 外ノ書ニ

ついで ついで

強 ついで 比古今其歌ニ 承永此ひつとくえ

ね ね

ついで ついで

唾 又作 唾

乾坤 ねひ

婦眉 越中 郡名

氣形 ねらひ

倭人

ねす

氣

服器 ねら

鏡鉸 佛器

ねさ

嫉妬 附注云 各不分

雜事 ねら

唧

ねぎ

勞 又ト訓又

ねらひく

捻挫 附注云 拵

ねふ

凍

ねらひ ねら

願 又樂

ねあ

睡 又眠

乾押 **まわら**

地震

雷ノ声ヲ取テノ訓トス并ライ
相通。鴨長明カ方丈記ニアリ

まどろ

直入

豊後
郡名

まろひ

ありわひはアリ

成相

丹後名所
海橋立

難波

撰津名
所今大

まぶた

鳴尾

撰列名所海辺
也大坂ニチカシ

まがね

長居浦

撰列
名所

まいた

七尾

能登
名所

まんと

田

俗ニ
縄手

まけけら **内教坊**

一町ハ主御門ノ
北堀川ノ西ナリ

氣形 **まがら** **虫**

ジチ氏アリ

ままづ

鯰

まづさ

腦

又作
腦

ままいと

鮮魚

生植 **ま**

苗

附きくち一
代又さき早

まづな

薺

薺同

まえた

弱葉

茶ノ

服器 **ま**

直衣

又欄衣ノ二字
なり訓ス

まがえ

轆

又輓
車具

まん

繩

附ハハ
又たけ

竹索

雜事

まろぬ 愁俗作

のり注

まいて

鳴又啼泣哭音

まめいり

媚

まつちう

懐

まろへ

長久長生

まげろ

撫摩同

まど

直附

まくだよ

啼度いりしよ

つらよ等

まどざり

等閑

まどく

猶又尚

まびろ

夢如

まろふ

習又効

まぶし

準

准同字又擬るまろふト又まろふト無

まづむ

泥

古訓也イフカシるまどいナラカス

まろり

慣

まろり松名負

古今及後撰等

まかろ

奈保留

延喜式忌詞外七言内ナリ死ヌルヲ云

まえたり

弱

詞ノナユルナリ又手足ノナユルニハ痿

まよほはら

歷易

病ノ名

汝又爾

まろい

直禮

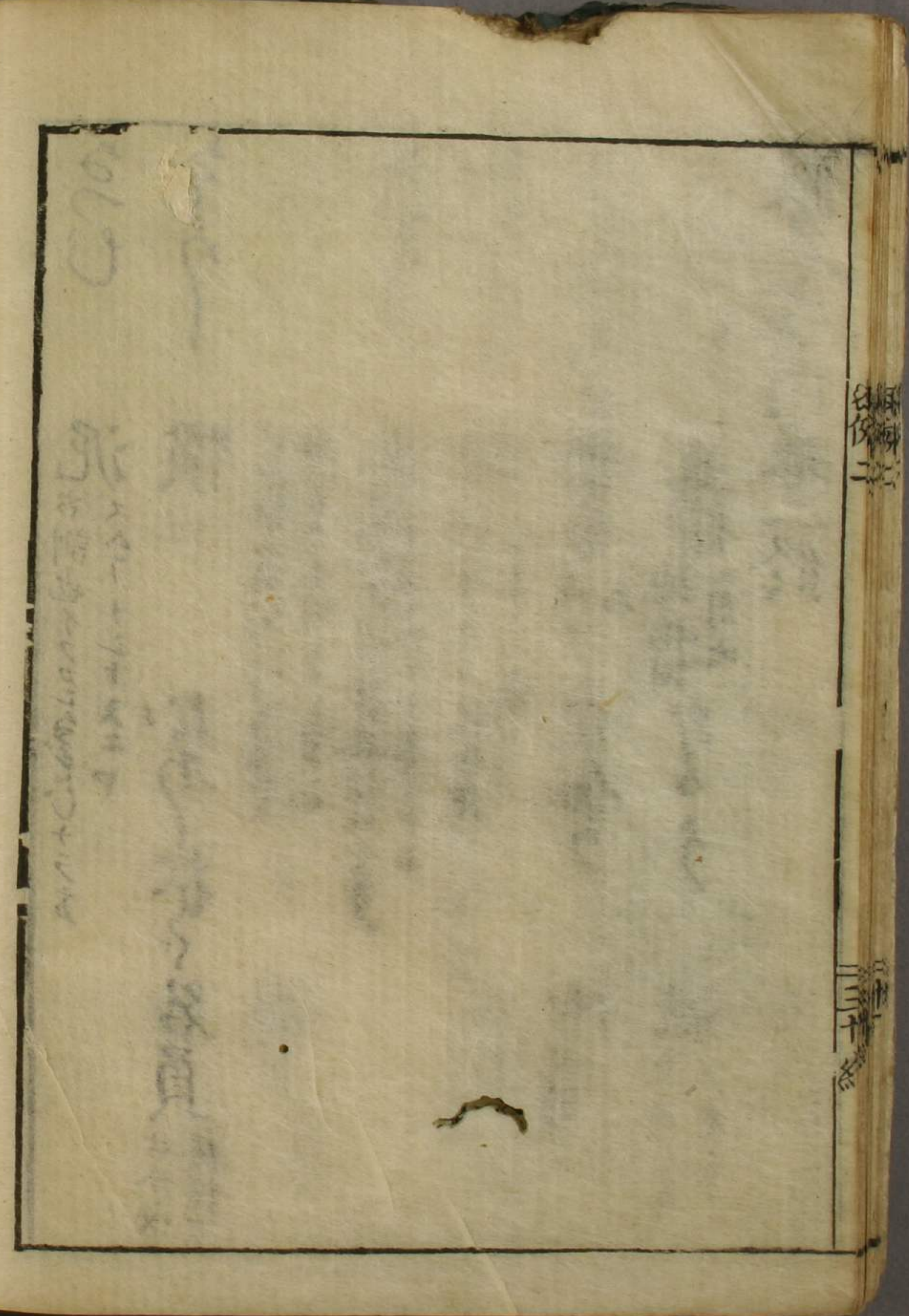
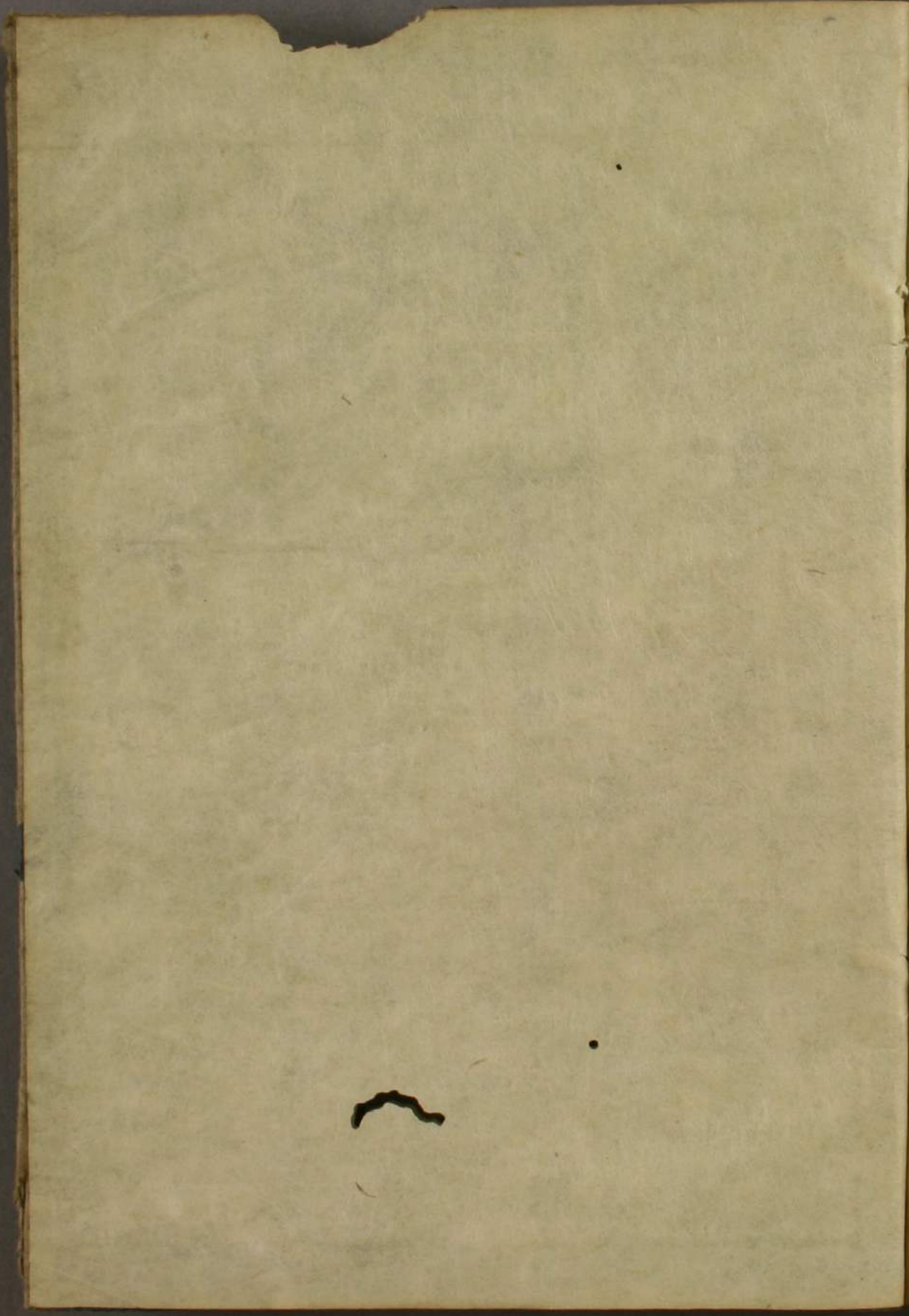
神祇詞ニ用之

まろり

温

圭角ノチキヲ云ナリ

假名字例卷二終



070

Handwritten text, possibly a date or reference number, located on the left side of the right page.

Small handwritten characters or a stamp located on the right edge of the page.

Small handwritten characters or a stamp located on the right edge of the page, lower down.

